

都市生活は2026年12月、40周年を迎えます！

生活クラブ連合会に加入する前の「生活協同組合都市生活」が設立・法人認可されたのは、1986年12月。この間、本部センター建設、阪神淡路大震災、生協連合会きりり設立、生活クラブ連合会加入など、さまざまな事がありました。

時代は変わっても、これまでずっと「今なにが大切か？」を

おおぜいで考え、一歩一歩じっくりと歩んできた歴史、生産者との関係を積み重ねてきた歴史の上に今があります。

最近「子どもの頃から“都市生活”のお世話になっていた」という声を聞くようになりました。これからも、次世代へバトンをつないでいきましょう。

生協設立40周年ロゴ&キャッチコピー決定！



40周年記念ロゴ 小野愛さんの作品 (広報委員会にて清書)
作品の解説…人間の生活と自然との関わりを40の「0」に描き込んだ。



40周年記念パーカー完成！
これを着て配達します！

40年の顔が見える安心を、これからも

40周年記念キャッチコピー ふくらすずめ(P.N.)さんの作品

ロゴには14作品、キャッチコピーには18作品の応募がありました。

選ばれたロゴは都市と自然を表現し、右上の矢印が飛躍や希望、上昇をイメージさせます。キャッチコピーは「顔が見え

る安心」がどの消費材にも言える事で、生産者と消費者の関係を端的に表しています。

このロゴとキャッチコピーを胸に、2026年度もおおぜいで歩みを進めていきましょう！

来年3月号まで、毎月「40周年」に関する記事をお届けします。どうぞお楽しみに！

第一弾となる今号では、生協設立1986年より前、共同購入会時代のお話をご紹介します。

次ページへ⇒



公式ウェブサイト

機関紙「都市生活」カラー版既発行分はこちらで。



Instagram

40年の物語 = 都市生活を支えた人たち =

生活クラブ生協都市生活は1986年に生協法人に認可される以前に、その前身組織として共同購入会の活動がありました。遡ると、昭和43年(1967年)に始まった牛乳の共同購入が起点です。その頃から活動し、現在も組合員の上田 淑さん(西宮市在住)に59年前のお話を聞きました。



3年前まで50年もの間、母校でお茶の先生をされていたそうです。お孫さんは宝塚歌劇団の劇団員で、観劇に行くのを楽しみにされています。

共同購入をするきっかけは？

昭和43年の当時、牛乳はお店で買うのではなく、宅配してもらうものだった。それまで1合びんの牛乳が15円だったが、すごく値上がりした^{※1}。当時、地域の婦人会から「牛乳と一緒に買おう」と呼びかけがあり、近所の人と一緒に共同購入を始めたのがきっかけ。後に知ったのは、神戸大学や関西学院大学の学生が、西宮北口近くで大学生協神戸同盟体^{※2}の活動「乳価値上げ反対運動」をしており、北阿万農協(現・JAあわじ島)の牛乳共同購入を地域に暮らす主婦に呼びかけていた。

※1 1967年ころから大手乳業メーカーが乳価値上げをし、大学では「栄養豊富な15円牛乳を守れ」と反対運動が広まった。

※2 大学生協神戸同盟体…兵庫県の大学で生協のあった神戸大学、関西学院大学、神戸商科大学、神戸市外国語大学の4つの大学生協による連携組織。「大学の壁を越えて連帯しよう」と集まった。

共同購入していたのは、牛乳だけ？

北阿万農協の鶏卵や管内の生産者の集まり「愛農会」の野菜も、共同購入するようになった。当時、鶏卵は一つのケージに5羽のニワトリを入れて飼育していたから、抗生剤など薬剤の大量投与が問題になっていた。そこで北阿万農協と話し合い、1ケージに1羽飼育するニワトリの卵の共同購入が始まった。カゴに10kg入った鶏卵を、班で分けて購入していた。

牛乳の値上げ、ニワトリへの投薬という問題に対する解決活動だったわけですね。その後は？

北阿万農協の鶏卵の共同購入のつながりで、農薬や化学肥料を使わずに栽培しようとしている農家と出会った。それが愛農会。

当時は甲子園浜からフェリーに乗って、毎月のように淡路島に行った。当時は農薬や化学肥料の使用が当たり前。カチカチに荒れてしまった畑で、30歳代の若い農家たちが有機肥料で野菜の栽培を始めた頃だった。

北阿万の野菜の共同購入も始めたのですね。

有機肥料で農薬を使わない栽培は大変。当時は中が真っ黒の大根、葉脈しか残っていないレース状の菜っば、そんなものしか届かなかった。週3回事務所に通って、会員から集めた新聞紙で野菜を包み、チラシなどで作った紙袋に入れて、配達に載せられるように仕分け作業をした。

自分以外の会員に届ける野菜を仕分けるわけですが、交通費はおろかお金をもらうことは考えたこともなく、奉仕の精神でやっていた。そういう作業をしなければ、農薬を使わない野菜を食べられない時代だったから。西宮や宝塚でこういう活動を20年近く続けて、生協都市生活の設立に至った。

お話を聞いて…

「野菜の仕分けをしていた、その時の気持ちは？」という問いかけに、「奉仕で野菜の仕分けをやっていた」という上田さんの言葉が印象的でした。最近では、特別な事を除いて「奉仕」という言葉を聞く機会がなかったからです。上田さんは専業主婦ではなく、神戸女学院で学生に茶道を教える仕事をしておられ、そんな中でも野菜の仕分けや産地訪問に参加されていました。自ら望む物は、自らが世話してでも手に入れなければ手に入らない。レース状の葉物でもガリガリの里いもでも、安心して食べられる方が優先。そういう思いを感じました。

他にも「福岡自然農園の福岡正信さんからお説教された」「小さなお子さんを連れのお母さんが野菜の仕分けに来ていた」など共同購入活動にまつわる事や、女学生時代の戦中のこと、終戦の日の出来事など、さまざまなお話をお聞きました。

今もよやく・る野菜セットを利用されており、お子さんに野菜や卵などの消費材を送ることもあるそうです。おそらく最高齢でありながら、現在も消費材を利用している組合員です。

(専務理事 山本晋也)



生活クラブは「つながるローカルSDGs」をテーマにしたしくみづくりを2022年にスタートしました。地域と地域、人と人を結び、食・環境・エネルギー・福祉において循環と共生の輪を広げ実践するもので、それまでもずっと続けてきた取り組みをSDGsの視点から地域全体へと広げたものです。

そもそもローカルSDGsとは

「ローカルSDGs」(=地域循環共生圏[※])は、2018年に環境省が提唱した地域づくりの考え方です。地域の多様な資源を最大限に活用しながら、環境・社会・経済を同時に解決して『自立・分散型社会』を目指すものです。

※ 環境省の地域循環共生圏「しる」を参照→



昨年度の活動から。
生き物観察&クリーンアップ大作戦(左)と田んぼの生き物調査(右)。

つながるローカルSDGs

現在、気候危機や人口減少、高齢化の影響で農産物や水産品など加工原料にもなる第1次産品が減少しています。生活クラブでは、生産者と提携し直接話し合うことで、産地と食べる側双方の課題を発見し、消費材の共同購入を通じて解決を目指してきました。近年、このつながりだけでは解決できない問題が各地で起こっています。この状況を打破するためには、生産者が生産を、組合員が消費をするだけでなく、協力しながら持続可能な地域を目指すことが重要になります。生活クラブでは、地域とつながりをもってすすめていくのだということが明確に伝わるよう、「つながるローカルSDGs」と呼ぶこととしました。

今年もやります！“in 兵庫”

私たち都市生活の配達エリアがある兵庫県は、山、川、海、森、都市のどれもが存在する多様性に富んだ地域であり、多くの提携生産者がいます。都市生活設立以来ずっと、地域の団体や生産者とつながり、兵庫の地域の食や環境について知って考える活動をしてきましたが、2024年度からはこれらを『つながるローカル SDGs in 兵庫』とし、より一層地域と“つながる”ことを意識しています。今年4月4日の「桜まつり」(西宮市山口町にある本部センターで開催)を皮切りに、「交流の田んぼ」(神戸市北区)で田植えから稲刈りまでの「田んぼのいちねん」を体験します。2021年から続く「クリーンアップ作戦」は甲子園浜(西宮市)と大蔵海岸(明石市)の2か所で、海に棲む生き物と水環境のことを学びながら清掃活動を、また、10月4日の「生活クラブ生協祭あいたくて」は、兵庫県内の団体や生産者など地域の人とともに作り上げる予定です。

生活クラブ連合会ウェブサイト
"つながるローカル SDGs" へ



『ウナイ 透明な闇 PFAS汚染に立ち向かう』 上映会

& 兵庫県内のPFAS汚染の現状報告(丸尾まき兵庫県議)

報告

2月23日、こうべまちづくり会館にて映画『ウナイ 透明な闇 PFAS汚染に立ち向かう』の上映会と、兵庫県内のPFAS汚染の現状についての報告会を開催しました。当日は多くの方が参加、報告会では活発に質問が寄せられ、PFAS問題への関心の高さがうかがえました。



PFASに関心を持つたくさんの方が集まりました。

『ウナイ 透明な闇』 上映会

映画では、世界各地で深刻化するPFAS汚染の実態が描かれ、特にアメリカの汚染地域でがんの多発が報告されている状況が紹介されました。自身のがん診断をきっかけに立ち上がったアマラ氏は、企業や行政の責任を迫り、その結果「世界一厳しいPFAS規制法」と呼ばれる「アマラ法」の制定に至りました。

作品を通じて、理不尽な状況に声を上げ続ける女性たち(=ウナイ)の姿が描かれ、市民の行動が社会を変える力になることが強く訴えられていました。「何も知らずに子どもに危険な水「毒」を飲ませてしまった」「許せない」という言葉が印象に残り、怒りや悲しみを強く感じました。

PFAS汚染は遠い国の話ではなく、基準が緩い日本では、私たち自身も知らないうちに体内に取り込んでいる可能性があることを知りました。自分に出来ることは何だろう？まずは身近な人に「PFASって知ってる？」と話題にすることから始めてみませんか。



映画公式サイトへ

上映会チラシ

兵庫県内のPFAS汚染、現状と対策

報告会では、日本と海外のPFAS基準の違い(海外はデータが更新され基準が強化されているが、日本は古い基準のまま)や、日常生活の中でPFASが使用されている製品の例、国の基準が甘い中、一部自治体が独自基準を設け対策を進めている状況などを知りました。また、兵庫県内の例として、宝塚市では井戸水の取水停止や、浄水場の活性炭処理施設の導入などの対策が進められている事が紹介されました。

== * == * ==

地域での理解と対策を進めるためにも、PFAS問題を「自分ごと」として捉え、情報を共有する事が重要だと感じる上映会と報告会でした。(理事 米花麗子)



100円のたすけあい

問合せ先：組織部(078-904-3260)中田

今年で10年、エコロたすけあい制度

エコロたすけあい制度(エコロ)は今年で開始から10年を迎えます。

「あの困った時に誰かに頼っていたら」組合員のそんな体験から、組合員どうしがたすけあえる関係をつくり出したい、と2016年10月にエコロはスタートしました。それから10年、困っていることに年齢は関係ないと、みんなが使えるように年齢制限を取

1月 エッコロたすけあい制度利用状況

加入者	1,515 人	給付申請件数	27 件
給付金額	28,989 円	事務費	6,035 円

エコロ講座開催報告 2 件

ったり、多くの方が就労する社会の状況に合わせて要件を緩和したりと、2回の制度改定を行いました。様々な使い方ができる、許容範囲の広い制度になりました。これからは組合員が組合員のためにつくったエコロをもっと活かしていけるよう、多くの人にエコロを知らせ、加入者を増やして、みんなでエコロを育てていきたいと思ひます。(理事 菊田宏子)

**法人パートナー制度
登録保育園からの要望で**

「食品添加物の実験とウインナーづくり体験」

法人パートナー制度は、幼稚園や保育園等が法人パートナーとして生協に登録すると、消費材を割引価格で利用できるほか、個配システム料も不要になるしくみです。登録園児の保護者に生活クラブを知らせるために、案内チラシや「すくすくブック」、ホットケーキミックスのサンプル等の配布をしたり、要望に応じて、食育講座の開催をするなど、子育て施設を応援しています。



制度を通じて食育講座が実現

昨年、宝塚ひよこ保育園から要望があり、1月13日に食育「おうちごはん」プロジェクトの食育講座「食品添加物の実験とウインナーづくり体験」を実施しました。今回は、前年のモッツァレラチーズ作りが続く開催で、近隣の保育施設の調理師や栄養士、8人の参加がありました。



まずは知ることから

はじめに生活クラブのウインナーと添加物入りウインナーの違いを動画で視聴。「同じ量の肉なのに、添加物でこんなに増えるなんて…少し怖くなりました」との声も。続いて、亜硝酸エステルを使った実験で、亜硝酸ナトリウムについての学習。テストターの色の変化に、思わず驚きの声。「子どもはウインナーが大好き。お母さんにも伝えたいです。」という感想もありました。

さらに、ウインナーの主役である“豚肉”について、生活クラブのものとは市販品との違いなどを伝えました。どんな環境で育てられているのか、どんな特徴があるのかを知ることで、より安心して選ぶことができます。

いよいよお楽しみのウインナー作り！

材料はとてもシンプル。冷たい豚ミンチに 塩→スパイス→玉ねぎ→水の順に加え、その都度しっかりこねます。羊腸を取りつけた絞り袋にミンチを入れ、力を込めて羊腸にミンチ肉を詰めていきます。手作業なのでなかなか大変！でも、それもま

た楽しい体験です。詰め終わったらクルクルとねじって形を整え、たっぷりのお湯でゆでて完成。

自分たちで作ったウインナーは格別のおいしさ。そして何より“中身がわかる安心”が実感できる時間となりました。毎回素材を選んで手作りするは大変ですが、生活クラブなら、手頃な価格で、美味しく安全なウインナーを利用できますね。

子どもたちの健康を応援します！

食べ物のこと、食べ方のことなど、食育について知りたい、体験したいという方は、ぜひ生活クラブ生協の食育「おうちごはん」プロジェクトの企画に参加してみてください。法人パートナー制度を通じてのご相談も受け付けています。

こういった体験から得られたことが、園のみなさんや保護者の方にも伝わっていき、子どもたちに安心して美味しい食が届けられることを願っています。
(理事 片山由香里)



ブロッコリーとにんじんの

かりかり豆腐ガレット

おやつにもピッタリ！



- < 材料 > 4人分(26cm 2枚)
 ・木綿豆腐 1丁(400g)
 ★コンソメ 大さじ1 ★おろしにんにく 小さじ1
 ★黒コショウ 少々 ★片栗粉 大さじ6
 ・にんじん 1本(150g) ・ブロッコリー 1個 (250g)
 ・ピザ用チーズ 100g ・なたね油 大さじ2

< 作り方 >
 下準備：木綿豆腐は電子レンジ(600W)で6分加熱して、水切りをしておく。にんじんは千切り、ブロッコリーは細かく刻む。

- ① 水気を切った木綿豆腐は、泡だて器でクリーム状にする。
- ② ①に★を加え混ぜる。
- ③ にんじん、ブロッコリー、チーズを加え、手でしっかりと混ぜる。(生地が水っぽい時は片栗粉で調節)
- ④ なたね油大さじ1を熱したフライパンに③の半量を広げ、中火で焼く。
- ⑤ 焼き目が付いたらひっくり返し、フライ返しで縁を丸めながら焼く。残り1枚も同様に焼く。

生協(生活協同組合)とは

★そもそも「協同組合」って？

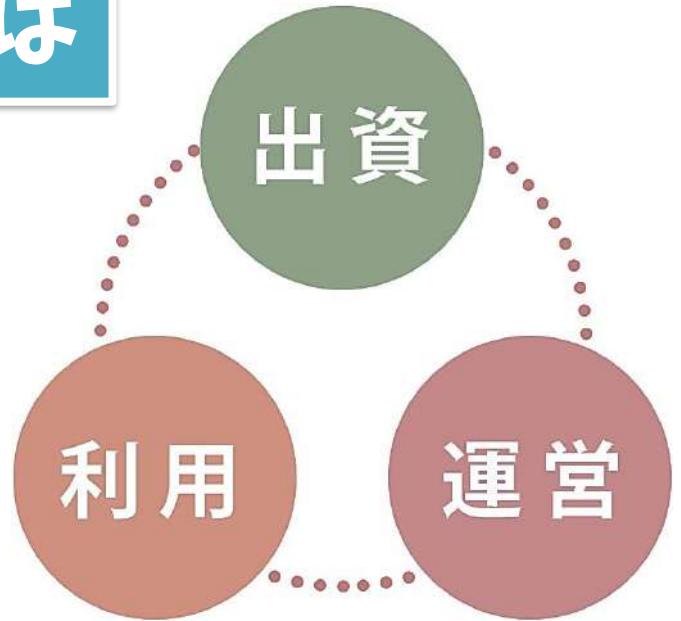
共通のニーズや願いを持った人同士が自発的に集まって、事業を通してそれを実現する組織。「協同組合」には、生活協同組合をはじめ、農業協同組合や漁業協同組合、森林組合など様々な種類があります。そして協同組合は、日本だけでなく世界各国に、同じように存在します

これらの組織は「国際協同組合同盟」(ICA=International Co-operative Alliance)に登録されています。ICAは、国連に登録された世界最大のNGO(非政府組織)で、1895年にイギリスで設立され、世界で最も古い非政府組織の一つ。日本は、戦後の1952年に加盟しています。

★協同組合の中の一つ「生協」

消費者一人ひとりがお金(出資金)を出し合い、組合員となり、運営・利用する「協同組合」の仕組みを使った消費者自身の組織

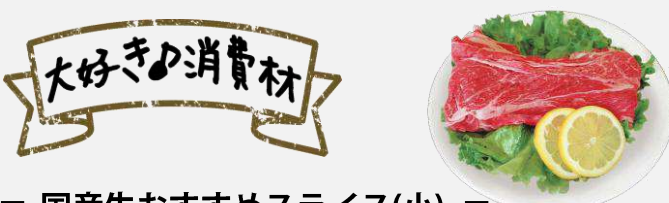
全国に約540ほどあります。一般的なスーパーとの違いは、「安心できる、安全な食品がほしい」「暮らしをより良くしたい」といった消費者の「ねがい」を実現させるために、皆で利用し意見を出し合って運営する点です。



★「生活クラブ生協」の特徴

全国約42万世帯が加入する安心・安全な食材を毎週届ける宅配生協

単なる食材宅配ではなく、食や環境、福祉を通して「持続可能な社会」を目指す組織で、消費者と生産者との相互扶助の関係を大切にしています。また、食料品や生活用品を「消費材」と呼び、利益を得ることが目的の「商品」と差別化しています。



＝ 国産牛おすすめスライス(小) ＝

200g 1,004円(税込1,084円)

北海道チクレンの国産牛ロースを中心にモモ、バラなどいろいろな部位を使用したパック。300gの徳用もあって、私はこちらを月1回のよやく・るで利用しています。よやく・るは前もって来る週がわかるので、これが来る日は牛肉の献立を考えておきます。たいてい、肉じゃがにしたりすき焼きにしたりしますが、玉ねぎスライスやキャベツと一緒に焼き肉のたれで焼くと、ボリュームが増えるし、お手軽なので時間のない時にいいですよ。レタスで包んで食べると、一気に食事が楽しくなります。

牛肉の普段使いは贅沢と思いがちですが、この牛は毎日飲む牛乳を産してくれる乳牛です。牛肉、牛乳、チーズやヨーグルトとまるごと食べて、国内の畜産を支える力の一になりたいと思います。(東神戸支部 高岡敦子)

職員の和田さんが 東灘警察署より感謝状を授与！

2026年3月9日、都市生活の本部センター次長である和田大輔さんが、東灘警察署管内において、特殊詐欺被害を未然に防止した功績により、東灘警察署長から感謝状を贈呈されました。

和田次長は2月19日の東灘区での配達中に高齢者へ何気なく挨拶したことから、話をするなかで特殊詐欺に気付き、直ちに警察への通報を行いました。このことは、兵庫県各地で発生した事件等を掲載する兵庫防犯ネットにも【特殊詐欺の水際阻止(2月19日・東灘)】のタイトルで「神戸市東灘区の『生活クラブ生協』配達員さんの積極的な声かけにより、特殊詐欺の被害が未然に防止されました(抜粋)」と掲載されています。

この度の表彰を大変誇りに思うとともに、今後も地域で活動する生協として、安心・安全なまちづくりに貢献してまいります。





冷凍ヤンニョムジャン(キムチの素)

50g×3 595円(税込643円)



「ヤンニョムジャン」をご存知ですか？唐辛子をベースにニンニク、生姜、醤油、イワシの塩辛、ごま油、砂糖などを混ぜ合わせた韓国の伝統的な調味料のことです。「ヤンニョム(葉念)」は味の根源という意味で、素材の臭みを消して風味を変える韓国料理に欠かせない基本の調味料です。生産者交流会で「第一物産」代表の姜さんから、何にでも使えると教わりました。

好みの野菜や魚介類を漬け込むだけで簡単にキムチが作れるのはもちろんですが、野菜炒め、魚の煮付け、肉じゃが、ラー

メンにそのまま加えたり、醤油を足して冷奴、鶏の唐揚げにトマトケチャップと一緒に混ぜると本格的な味のヤンニョムチキンが完成します。(辛みの苦手な方は少し砂糖を加えると辛さが和らぐそうです) しかもこのヤンニョムジャンは市販品と違って添加物の入っていない貴重なもので、程よい辛さと自然な甘さがあって本格的な味です。是非一度、注文して試してみてください。きっとあなたもその美味しさにハマるはずです！
(森田裕美子)



Q 新しく出た牛乳キャップは液だれがなく、重宝しています。ただ、洗っても汚れが残っているような気がします。何か手立てはないでしょうか？

A 開発に時間をかけただけあって、本当に液だれが改善されています。

キャップはせっけんで洗った後、「炭酸塩スプレー」※をシュッシュフリかけて、ブラシなどで軽く隙間をこすり、水で流してもらえばOK! です。洗い上がりがスッカリ、臭いが残ることもありません。(炭酸塩だけでも洗えます。)タンパク汚

れに強い炭酸塩を、ぜひお試しください。
※「炭酸塩スプレー」の作り方→消費材の「炭酸塩」小さじ1/2を500mlの水に溶かします。スプレーに入れてお使いください。



本部センター
木原 努

生活クラブ生協の職員が、日ごろの業務、身のまわりのできごとを通して見たもの、聞いたことをお伝えします。

良薬は口に苦し???

本部センターの木原です。私はみなさんから紹介をしていただいたお知り合いの方々のお宅に生協の説明に伺っています。生活クラブってどのようなイメージですか？安心安全で化学調

味料、添加物、農薬を使っていない、このようなイメージをお持ちの方が多いかと思います。

私が生活クラブの説明をする時に大事にしていることは、安心安全はもちろんですが、「ちゃんと作られた物は美味しいんです！」これを伝えるようにしています。「良薬は口に苦し」と言いますが、美味しくなくても体に良いから我慢して食べるでは苦痛でしかありません。

なぜこの消費材が美味しいのか、生活クラブは安全で美味しい食べ物がいっぱいとこれからも伝えていきます。

理事会報告

2025年度第10回理事会報告 2026.2.24.10:00~16:41 於:中央区文化センター
出席理事：19名、出席監事：3名

以下、報告承認事項(2項目省略)と協議決定事項(2項目省略)

1. エッコロたすけあい制度給付審査は、1月申請分27件中27件承認。
2. 生活クラブ関西運営委員会の報告を受け、承認。
3. 水車を未来につなぐ会 運営会議報告を受け、内容を承認。
4. 2025年度みなし脱退処理の提案を受け、原案通り承認。
5. 職員給与改定の提案を受け、原案通り承認。
6. 第40回通常総代会関連の公示内容について、原案通り承認。
7. 2026年度活動方針策定に関して、原案をもとに協議した。
8. 2026年度事業計画、組合員活動費予算の策定状況について報告を受け、承認。

9. 自然エネルギーインストラクター登録者の創出を目指す活動提案を受け、原案通り承認。

10. エッコロたすけあい制度開始の2026年度方針について、原案通り承認。2026年度本部センター桜まつりの開催提案を受け、承認。

(会議報告)

生活クラブ連合会の機関会議、各専門委員会、TCC理事会の会議記録をもとに共有。
(事業報告)

1月度決算を確認。1月度供給高は予算比102.21%、供給剰余率は予算を上回った。経費執行は予算比102.12%。当期剰余は予算差+329万円。1月末組合員数14,032人(昨年差+53人)、出資金総口数 1,324,491口。

高橋徳治商店交流会に参加して



供給再開当初のおとうふ揚げ



震災から15年、高橋さんが生活クラブに掛ける思いは変わりません。

東日本大震災から15年

宮城県で水産加工業を営む「(株)高橋徳治商店」は、創業106年を迎えた2011年、当時本社のあった石巻市で東日本大震災に遭遇しました。工場が津波でヘドロまみれになるなど、自ら多大な被害を受けつつも、多くのものを失い再生を図るこの被災地で「必要とされる会社」になろうと、再建に取り組んできました。

組合員が工場に行き、一つ一つの機械のヘドロをせっけんで落としていく等、普通の企業と取引先の関係ではとても考えられない、わが事のように心を寄せた生活クラブの支援もあり、震災から7ヵ月、「おとうふ揚げ」ラインが再稼働しました。

震災後に初めて生産した「おとうふ揚げ」のパッケージには「3・11はまだ終わらない」と大きく掲げ、多くの人たちの支援を得て生産を再開することができたお礼の気持ちをメッセージにして書き込みました。

心の復興を

社長の高橋英雄さんは、震災後さまざまな事情により居場所や心のよりどころをなくした人たちの姿に、震災当時のご自分の姿を重ねていました。そんな若者たちが閉ざしていた心を開き、笑顔を取り戻して元気に働く場所を作りたいと考え、2018年に工場の隣に「野菜加工場」を作りました。「今では、働く若者たちが笑顔を見せる時、私たちの心に灯がともります。」とうれしそうにおっしゃっていました。

おとうふ揚げは復興の象徴です！

40年以上前から添加物を使わず、石巻魚市場に揚がる魚の素材の特徴をいかし作る魚肉練り製品には、作る人も食べる人も、誰もが幸せであり、その存在が大切にされるようにとの願いが込められています。

魚のうま味と大豆の甘みが感じられる、ふわふわとした食感の「おとうふ揚げ」。少し温めるとよりおいしさがひきたつとのこと、ますます好きになりました。(理事 平岡真弓)

= あの日の記憶 =

東日本大震災後、生活クラブはただちに救援活動を始め、都市生活の職員も現地救援に向かいました。これはその報告で



機関紙に掲載した写真です。当時高橋さんが避難されていた神社に、救援物資を届けました。(機関紙都市生活 2021年6月号)

編集雑感

生活クラブ生活協同組合都市生活設立40周年を迎えます。

今年度の機関紙では、設立以来都市生活が取り組んできた活動を振り返ります。その主役はいつも組合員です。私たちと同じ組合員が、自分たちの生活をより良くするために一つ一つ紡いできた活動を知って、未来に繋げましょう。これはまさに、現在私たちが掲げる「つながるローカルSDGs」の実践です。(T)

2026年2月号より
せっけんレシピ

機関紙モニターのつがやき

写真にある「固型せっけん」をずっと使っています。はじめは浴用に使用していたのですが、台所でも使うようになりました。せっけんが小さくなってくると割れてくるので、その時はネットの中に入れ最後まで使います。安いのもありがたいです。(南神戸 MK)